



マグフレンズ 施工手順書

ホワイトボード・ブラックボード・黒板

[2022.8 版]

ISHIYAMA

2022年
改訂版

施工前に必ずお読みください。

施工経験者の方も変更箇所があります。再度お読みの上ご確認ください。

「マグフレンズ」(ホワイトボード・ブラックボード・黒板)注意事項・施工要領

※マグネットホワイトボードにはこの施工要領は絶対に使用しないでください。

この施工要領は「マグフレンズ」に対するものです。本製品がマグフレンズであること(外箱のラベルシール)をご確認ください。もし、弊社商品マグネットホワイトボード(MGW-R1・MGW-R2・MGW-R3)や他メーカーの製品ホワイトボード・ブラックボード・黒板等において、施工後の不具合、使用上の不具合について弊社では一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

※マグネットホワイトボード(MGW-R1・MGW-R2・MGW-R3)は材料一覧表にある下地全てでこの施工をしてもマグネットは付きません。マグの相方を施工した壁・楽ちんマグボードの壁・すでにマグネットが付く黒板など、下地が鉄のものに接着剤を使用しないで、「くっつけてはがして」をするシートです。

製品	対象下地	施工適否
マグフレンズ全種類共通	石膏ボード等(64ページ材料一覧参照)	施工必要
マグネットホワイトボード	鉄	施工不可

マグフレンズ施工の上でのご注意

施工後の不具合については保証いたしかねます

- ◎直射日光が当たる箇所や火の近くでの使用はしないでください。(変色や変形することがあります。)
- ◎壁紙の上から施工すると糊が吸い込まないので、ハガレ・フクレの原因になります。すでに壁紙が貼られている場合は必ず設置部分の壁紙を剥がして下地の上から施工してください。
- ◎接着剤を塗布する際は均一になるように丁寧に塗布してください。均一でない場合オープンタイム(プラゾールSS)を取っている間に薄い箇所は乾燥して本製品の裏面(接着側面)とは接着せずに、その箇所が施工後のフクレの原因となります。
- ◎本製品はゴムシートのため吸水性・通気性が乏しいので、通常の壁紙のエア抜き以上に慎重に行ってください。
- ◎櫛目ゴテ等のみの塗布ですと施工後凹凸が目立ちます。ローラーで均一に塗りのばしてください。
- ◎「種類別下地処理」に記載している下地以外については、糊の水分の逃げ場がない等、ハガレ・フクレが起こる場合があるので施工は避けてください。施工を避けられない場合には施主様や依頼主様にはハガレ・フクレの可能性があるので事前に必ず確認してください。
- ◎マグフレンズ、特にホワイトボードタイプは表面にツヤがあり光を反射するので、貼りあがった後、表面からも下地の凹凸が目立ちますので不陸調整のバテ処理は必ず丁寧に行ってください。照明を直接当てるような様な場所では拡散反射を起こす場合があります。
- ◎施工する際は、製品を折り曲げたり、表面に傷を付けないようご注意ください。
- ◎ジョイント部は突き付け施工となるため、ジョイント部は目立ちます。
隙間部分にコーキング等で白くした場合、マーカー等の色が染み込みに消えなくなります。
※接着剤は「マグフィニッシュ」または「EV-30」調整が利ききやすいのでお勧めいたします。

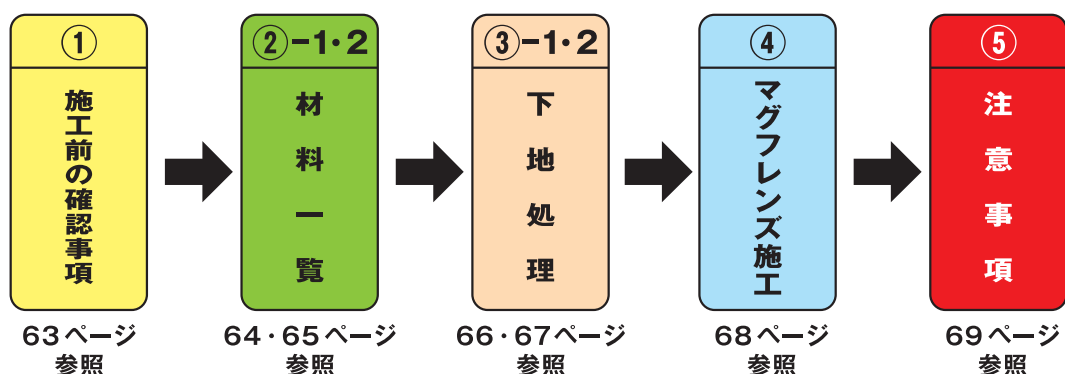
取扱上のご注意

- ◎施工に使用する製品に関しては、各製品の使用方法、注意事項を必ず読み、十分にご理解の頂いた上でご使用ください。
- ◎施工前に施工説明をよく読み、正しく施工してください。
- ◎マグフレンズは屋内専用です。直射日光の当たる箇所や火の近くなど、高温・多湿の場所へのご使用は避けてください。
- ◎本製品はマグネットではありません。
- ◎本製品は鉄粉を含んだゴムシートが素材です。冷蔵庫等製品と比較すると保持力は20~30%位とお考えください。
※マグネットを選ばれる際は強力マグネット(ネオジウムマグネット)を使用してください。
- ◎電子機器、医療機器、精密機器、磁気製品、時計等に粘着させないで下さい。粘着させるだけでは影響はありませんが、磁石部品をくっつけてご使用の際に相手側の機能を失う可能性があります。

マグフレズ施工要領

施工の流れごとの施工方法をよく読み、施工してください。

施工の流れ



①	施工前の確認事項、下記を必ずお読みください。
②-1-2	材料一覧を確認の上、製品が適合しているか確認してください。
③-1-2	種類別下地処理を確認の上で適正な下地処理を行ってください。
④	マグフレズ施工をよく読み正しく施工してください。
⑤	使用上の注意を必ずご確認ください。

① 施工前の確認事項

◎この施工要領はマグフレズに対するものです。本製品がマグフレズであること（外箱のラベルシールで）をご確認ください。もし、弊社商品マグネットホワイトボード(MGW-R1・MGW-R2・MGW-R3)や他メーカーのホワイトボード・ブラックボード・黒板において、**施工後の不具合、使用上の不具合**について弊社では一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

※マグネットホワイトボード(MGW-R1・MGW-R2・MGW-R3)は材料一覧表にある下地全てでこの施工をしてもマグネットは付きません。マグの相方を施工した壁・楽ちんマグボードの壁・スチール製パーテーションなど、下地が鉄のものに施工をしないでくっつけてはがしてがせるシートです。

◎施工は**5℃以上**で行ってください。

◎本製品はロール状になっているので、あらかじめ**巻きぐせ**を取ってください。

◎施工する下地に対して**材料一覧表**から本製品が適している商品か必ず確認してください。

◎施工する下地に対して**材料一覧表**から**接着剤**が適している商品か必ず確認してください。

◎下地の種類によっては施工できない場合や、下地調整に思いのほか時間や経費が掛かる場合もあります。

◎マグフレズは**0.6mm**の厚さがあります。壁紙より厚さがあるので副資材としてトキワフラットジョイナー(26ページ参照)を推奨しています。

②-2 材料一覧表

製 品	種類別下地	石膏ボード	ケイカル板	ベニヤ	ラワン合板	コンパネ	コンクリ	モルタル	繊維壁	じゅらく	珪藻土	水性ヘンキ塗装	油性ヘンキ塗装	焼付塗装鉄板	化粧合板

●下地別 調整材・補強材

	シーラーセットアップ ウォールボンド工業(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				※1
	390クリーン ウォールボンド工業(株)											○	○		
	コンタクトセメント No.1 ウォールボンド工業(株)													○	○
	パワーシーラー (株ニッター)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				※1
	プライマーA (株ニッター)											○	○	○	○
	シーアップ ヤヨイ化学工業(株)	○													

※1 化粧合板につきましては種類別下地処理【非吸水下地】にてご確認ください。

③-1 種類別下地処理

事前確認

- ①直射日光が当たる箇所や火気の近くでの使用はさけてください。
- ②下地に油污れやサンダー処理後の粉などが残っている場合は取り除いてください。
- ③下記の該当する下地を確認して、それぞれの手順に沿って下地処理を行ってください。
- ④施工前に下地が確実に固定されているか確認してください。

石膏ボード下地(露出した下地)

- ①ボード継ぎ目や不陸部など、適宜必要に応じてパテ処理を行ってください。
- ②パテを塗布した部分が完全に乾燥後、下地全面にシーラーセットアップ(ウォールボンド工業)を**3倍希釈**、**パワーシーラー**(ニッター)を**2倍希釈**、**シーアップ**(ヤヨイ化学工業)を**4倍希釈**のいずれかで塗布してください。
- ③完全乾燥させる。

※下地処理後「マグフィニッシュ」または「EV-30」または「ブラゾールSS」にて施工

貼り替え下地：クロスの裏紙が残っている場合

- ①既存の壁紙の裏紙の浮き具合を確認。水を霧吹きなどしてみて、浮きが激しい場合はすべて剥がしてください。
- ②裏紙がほぼしっかり残っている場合は、適宜必要部分にパテ処理を行ってください。
※裏紙をほとんど取り除いた場合 ⇒ 露出した下地の手順に従って処理してください。
- ③パテを塗布した部分が完全に乾燥後、下地全面にシーラーセットアップ(ウォールボンド工業)を**3倍希釈**、**パワーシーラー**(ニッター)を**2倍希釈**、**シーアップ**(ヤヨイ化学工業)を**4倍希釈**のいずれかで塗布してください。

※下地処理後「マグフィニッシュ」または「EV-30」または「ブラゾールSS」にて施工

ケイカル板・ベニヤ・ラワン合板下地

- ①下地全面にシーラーセットアップ(ウォールボンド工業)**3倍希釈**または**パワーシーラー**(ニッター)**2倍希釈**し塗布する。
※ベニヤ・コンパネにおいて、シーラー塗布時に木目が大きく膨らむ部分があれば取り除いてください。
- ②下地に不陸がある場合は、乾燥後パテ処理を行う。
- ③パテを塗布した部分が完全に乾燥後、パテの上にシーラーセットアップを**3倍希釈**または**パワーシーラー2倍希釈**し塗布する。
※吸い込みが激しい下地やアクが強そうな下地の場合は、パテ上だけでなく全面に塗布してください。
- ④完全乾燥させる。

※下地処理後「マグフィニッシュ」または「EV-30」にて施工

コンパネ・コンクリ・モルタル下地

- ①下地全面にシーラーセットアップ(ウォールボンド工業)**3倍希釈**または**パワーシーラー**(ニッター)**2倍希釈**し塗布する。
※ベニヤ・コンパネにおいて、シーラー塗布時に木目が大きく膨らむ部分があれば取り除いてください。
- ②下地に不陸がある場合は、乾燥後パテ処理を行う。
- ③パテを塗布した部分が完全に乾燥後、パテの上にシーラーセットアップを**3倍希釈**または**パワーシーラー2倍希釈**し塗布する。
※吸い込みが激しい下地やアクが強そうな下地の場合は、パテ上だけでなく全面に塗布してください。
- ④完全乾燥させる。

※下地処理後「マグフィニッシュ」または「EV-30」にて施工

③-2 材料一覧表

繊維壁・じゅらく・珪藻土など塗り壁下地

- ①下地の状態の確認。軽く触って塗りが落ちる場合や、濡らしてはがれやすい場合はできるだけ取り除く。
※塗りを完全に落とした場合 ⇒ 露出した下地の手順に従って処理をする。
- ②塗りを取り除くまでの必要がない場合、下地全面にシーラーセットアップ(ウォールボンド工業) 3倍希釈またはパワーシーラー(ニッター) 原液で塗布する。
- ③下地に不陸がある場合は、乾燥後パテ処理を行う。
- ④パテを塗布した部分が完全に乾燥後、パテの上にシーラーセットアップ 3倍希釈し塗布する。
※吸い込みが激しい下地やアクが強そうな下地の場合はパテ上だけでなく全面に塗布する。
- ⑤完全乾燥させる。

※下地処理後「マグフィニッシュ」または「EV-30」にて施工

ペンキ塗装された下地：水性ペンキ・油性ペンキ等

- ①下地の状態の確認。表面の汚れはふき取る。塗膜に浮き、めくれ、割れなどがある場合はワイヤーブラシやサンダーで塗装を取り除く。
- ②塗膜がしっかり残っている場合、390クリーン(ウォールボンド工業) 原液～2割希釈またはプライマーA(ニッター)を原液～1.2倍希釈で全面に塗布する。
※塗膜をほとんど取り除いた場合 ⇒ 露出した下地の手順に従って処理する。
- ③下地に不陸がある場合は、乾燥後パテ処理を行う。
※このとき、390クリーンまたはパテボンドを多めに添加したパテを用いるか、そうでない場合は、パテを塗布した部分が完全に乾燥後、シーラーセットアップを3倍希釈し塗布する。
- ④完全乾燥させる。

※下地処理後「マグフィニッシュ」または「EV-30」にて施工

焼付塗装鉄板(パーティション含む)化粧合板(プリント合板)等

表面に特殊加工がしていると、コンタクトセメントNo.1・プライマーAの付着が思わしくない場合があります。その場合は施工を避けてください。

※化粧合板においてのみ、プリント化粧層をすべてサンダー処理などで削り取った場合ベニヤ下地と同様の処理で施工ができます。

③-1 種類別下地処理(ケイカル板・ベニヤ・ラワン合板下地)の手順に従って施工

- ①下地の状態の確認。表面の汚れはふき取る。
※焼付塗装鉄板の表面にキズ・サビがある場合は先に防錆処理
- ②塗膜がしっかり残っている場合、コンタクトセメントNo.1(ウォールボンド工業)を原液またはプライマーA(ニッター)を原液～1.2倍希釈で全面に塗布する。
※塗膜をほとんど取り除いた場合 ⇒ 露出した下地の手順に従って処理する。
- ③下地に不陸がある場合は、乾燥後パテ処理を行う。
※このとき、390クリーンまたはパテボンドを多めに添加したパテを用いるか、そうでない場合は、パテを塗布した部分が完全に乾燥後、シーラーセットアップを3倍希釈し塗布する。
- ④完全乾燥させる。

※下地処理後「マグフィニッシュ」または「EV-30」にて施工

④ マグフレンズ施工

事前確認

- ① 5℃以上の環境で施工を行ってください。
- ② 種類別下地処理を正しく行ってから施工してください。
- ③ 巻きぐせは必ず取ってから施工してください。
- ④ ブラックボードは凹凸が有る面が表です。表裏反対で施工した場合書き消しは出来なくなります。
- ⑤ 商品がマグフレンズであるか確認してください。(外箱にマグフレンズのラベルが貼ってあるか)
マグネットホワイトボード(MGW-R1・MGW-R2・MGW-R3)や他メーカーのホワイトボード・ブラックボード・黒板における施工後の不具合、使用上の不具合には一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

マグフィニッシュ(石山)・EV-30(ウォールボンド工業)使用の場合



でん粉糊にボンドを混合した糊なので調整が利きやすく、壁紙を貼るような感覚で施工ができます。難しいオープンタイプは不要、1巾ずつ塗布してください。

- ① 商品はロール状になっているので**巻きぐせを取って**から貼ってください。糊が材料の重さや巻きぐせに耐えられない場合は、周りを速乾ボンドで仮止めしてください。
- ② 「マグフレンズ」を貼る際は、必ず下地ごとの適正な下地処理を済ませてから、「マグフィニッシュ」または「EV-30」原液を「下地側の貼る箇所」にパテベラ・櫛バケ・櫛目ゴテなどを用いて1巾ずつ塗りつける。櫛目が付いた物を用いると均一に塗布がしやすいです。
- ③ ローラーで均一に塗りのばしてから「マグフレンズ」を貼ってください。**目安の塗布量は200g/m²**。
※「マグフィニッシュ」も「ウォールボンドEV-30」も向こう糊付け用(下地側に塗布する)接着剤なので、材料への直接塗布のスペースを確保する必要は有りません。
- ④ 上からスムサーや撫で刷毛、ローラーなどを用いてシートの中央から外側に向けて丁寧にエア抜きしながら貼り付ける。**ジョイントは突き付け施工**としてください。
櫛目が付いた物を用いると均一に塗布がしやすいです。
※残った「マグフィニッシュ」は「EV-30」の用途(掲示板クロス等)に合わせてご使用していただけます。

プラゾールSS(ヤヨイ化学工業)使用の場合



マグフレンズの施工ではボンド系なので高度な技術を必要とします。塗りムラ、オープンタイムには細心の注意をして下さい。

- ① 「プラゾールSS」が施工する下地に適合してるか確認してください。
- ② 商品はロール状になっているので**巻きぐせを取って**から貼ってください。糊が材料の重さや巻きぐせに耐えられない場合は、周りを速乾ボンドで仮止めしてください。
- ③ 「マグフレンズ」を貼る際は、必ず下地ごとの適正な下地処理を済ませてから、「プラゾールSS」原液をローラーで**均一に塗布し**、5分ほどオープンタイム(屋内23℃)を取得した後貼ってください。**目安の塗布量は100g/m²**。

注意点

- ※ オープンタイムは温度・湿度・直接日光が当たる場所・日陰などの環境によって変化します。適宜調整の上、粘着力が高まった状態で貼ってください。
- ※ 接着剤を塗布する際は均一になるように丁寧に塗布してください。均でない場合オープンタイムを取っている間に薄い箇所は乾燥して本製品の裏面(接着側面)とは接着せずに、その箇所が施工後のフクレの原因となります。
- ※ オープンタイムが短い場合、プラゾールSSから発生するガス・水蒸気の逃げ場が無くなり施工後フクレが発生します。
- ※ オープンタイムが長い場合、プラゾールSSが乾燥してしまい粘着力は無くなります。

※「マグフレンズ」の接着面を#80程度のサンドペーパーで軽く目荒らしをすると接着強度が増します。

- ④ 上からスムサーや撫で刷毛、ローラーなどを用いてシートの中央から外側に向けて丁寧にエア抜きしながら貼り付ける。**ジョイントは突き付け施工**としてください。
※ ゴムシートのため吸水性・通気性が乏しいので、**通常の壁紙のエア抜き以上に慎重**に行ってください。

●施工後の注意事項

- ①はみ出した、表面に付着した接着剤は直ちに清水またはアルコールで拭き取ってください。
- ②施工後は一週間程度は急激な空調の使用は避けて、自然換気に努めてください。

●マグフレンズ使用上の注意事項

ホワイトボード・ブラックボード・黒板シート共通

- 本製品は鉄粉を含んだゴムシートが素材です。冷蔵庫等製品と比較すると保持力は20～30%位とお考えください。
※**マグネットを選ばれる際は強力マグネット（ネオジウムマグネット）をご使用ください。**
- 紙等を多く重ねる場合はマグネットの強度をお確かめの上ご使用ください。
- ジョイント部にマーカーやチョークの消しカスが入り込んだ場合は市販のボードクリーナー等で清掃してください。
- シート表面を硬い物でこすったり、鋭利な物でひっかいたりしないでください、マーカーのインクやチョークのカスが入り込み汚れが消せなくなる原因になります。
- ホワイトボード・黒板シートは、施工を容易（採寸カット、寸法変更が容易及び軽量）にするために開発されました。その為、表面に軟質フィルムを採用しており、通常のスチール製ホワイトボードやスチール製黒板に比べ、表面の耐久性は劣ります。

ホワイトボード

- ①ホワイトボードマーカー以外は使用しないでください。ホワイトボードマーカーは色・メーカーにより、成分と構成比率が異なりますので、マーカーの種類によりインクがはじいて文字がかすれたりきれいに書けなかったり、きれいに消せなかったりする場合があります。また、長時間経過すると消しにくくなります。（剥離剤の層に顔料と樹脂の層が入り込む為）、汚れがひどくなった場合は、きれいな布を水で浸しよく絞った後シート表面を水拭きしてください。
- ②消字の際はホワイトボード用イレーザをご使用ください。イレーザは使用により劣化してきますので消去性が悪くなる場合があります、また、定期的に水洗いをするか交換をしてください。

ブラックボード

- ブラックボードマーカー・チョーク以外は使用しないでください。ブラックボードマーカー・チョークは色・メーカーにより、成分と構成比率が異なりますので、マーカーの種類によりインクがはじいて文字がかすれたりきれいに書けなかったり、きれいに消せなかったりする場合があります。また、長時間経過すると消しにくくなります。（剥離剤の層に顔料と樹脂の層が入り込む為）、汚れがひどくなった場合は、きれいな布を水で浸しよく絞った後シート表面を水拭きしてください。

黒板

- ①黒板シートは新しい状態ではチョークの文字が消えにくいいため、まず最初に白色のチョークを横に寝かせて、黒板面にチョークの粉をごすり付けて、黒板消しで黒板面全体を一様に拭いて、チョークの粉を落としてからご使用ください。
- ②黒板シートにはカルシウムチョークをご使用ください。硬いセラミックチョークのご使用は消えにくく表面を傷つける場合があります。
- ③消字の際は、黒板消しのご使用ください。黒板消しで文字を消去する場合チョークの消し残りがでる場合があります。その場合はきれいな布を水で浸しよく絞った後シート表面を水拭きしてください。また、黒板消しは使用により劣化してきますので定期的に交換してください。汚れがひどくなった場合は、きれいな布を水で浸しよく絞った後シート表面を水拭きしてください。水拭きの際は洗剤を使用しないでください。